

## はじめに

～自分の火種には、自分で火をつけて燃え上がらせよう。 土光敏夫～

平成28年4月熊本地震は、上益城の地に甚大な被害をもたらしました。当たり前であるためには、危機管理の積み重ねが必要であること、マニュアルでは対応しきれない事案があること。これらは、私たちが新しい教育課程に向かうにあたって、大きな教訓になったと考えます。

平成28年12月21日、2020年から10年間の子どもたちの学びを支える学習指導要領等の改善策等が答申されました。2020年は、東京オリンピック、パラリンピックの年です。恐らくその後の10年間、情報化、グローバル化、人工知能等、加速度的に進むはずです。そのため、答申には、子どもたちが、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、一人一人が主体的にかかわり、自身がよりよい社会と幸せな人生の創り手となる力を身に付ける必要があると書かれています。

答申を受け、2月14日公表された学習指導要領改定案には、

- 学校と社会の連携・協働の実現を図る「社会に開かれた教育課程」
- 児童生徒が「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を意識し、言語、情報活用、問題発見・解決能力等、学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる力を育成するカリキュラム・マネジメントの実施

が求められていました。併せて、○小学校におけるプログラミング教育 ○特別な配慮を要する子どもへの指導と教育課程等についても明確に示されています。

本県は、本年度

- ①Build Back Better(創造的な復興)～生きる力をはぐくむ教育
- ②地域とともにある学校・・・コミュニティ・スクールの推進
- ③グローバル人材の育成
- ④キャリア教育の充実・・・産業人材の育成

の4つの重点施策を掲げ、取組を進めてきました。上益城においては、特に「確かな学力」の定着～授業改善、「豊かな心」の育成～いじめ・不登校対策、「健やかな体」の育成～学校総体としての体力向上の3つの取組に力を入れてきました。

本年度版「みどりかわ」では、各種調査等を通して、これら3つの取組に関する管内の現状と課題を明らかにし、それらの課題解決に役立つ資料を、管内の優れた実践や国や県の情報からお届けしています。

是非、各学校、先生方個々のニーズに応じて、この「みどりかわ」を活用して、自らの教職の火種に火をつけていただければ幸いです。

最後になりましたが、多方面にわたって御協力いただきました各町教育委員会、各学校に対し、深く感謝するとともに、上益城の教育のますますの充実・振興を祈念申し上げ、挨拶いたします。

平成29年3月

熊本県上益城教育事務所 所長 緒方 登志子